



アフタークルーズワーク (ACW) 実施報告書

提出年月日：2017年10月20日

氏名： 山口 耕生

所属機関・職名：東邦大学理学部・准教授

IODP 研究航海番号 および航海名	Exp. 364 Chicxulub Impact Crater
乗船時の役割	Inorganic Geochemist
出張期間 (移動含む)	2017年10月3～6日および10月10～14日
使用施設	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画	
<p>IODP Exp. 364 に関連するアフタークルーズワーク (ACW) を、1回目は10月3日から6日まで、2回目は10月10日から14日まで、高知大学海洋コア総合研究センターにて行った。両方の滞在中の作業は、Exp. 364 から採取したバルク試料に関して、安定同位体質量分析装置 Isoprime を用いた炭酸塩成分の炭素・酸素同位体組成の測定および元素分析装置 EA を用いたバルク試料中の炭素・窒素・硫黄の存在量の測定、得られたデータに関するピーク補正や再計算等を行った。また、塩酸にて脱炭酸処理した試料に関して、元素分析装置- オンライン安定同位体質量分析装置 (EA-irMS) を用いた有機炭素の安定同位体組成および窒素同位体組成の測定、得られたデータに関するピーク補正や再計算等を行った。さらに、次回の測定のための試料準備 (すずカプセルに粉末試料を封入・秤量) も行った。本研究航海のモラトリウム期間の終了が迫る中、予定していた測定をほぼ終わらせることが出来た。</p> <p>今後、本研究で得られた成果を、12月中旬に開催予定のアメリカ地球物理学連合秋季大会 (AGU Fall Meeting, New Orleans) にて共同でコンビーナーを務める隕石衝突セッションにて発表予定である。さらに、今回得られたデータを、執筆中の英文論文に加えて考察を重ねる予定である。</p>	
備考	

注意事項

1. 本報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構地球深部探査センター (CDEX) 内 J-DESC サポートオフィスに E-mail (info@j-desc.org) でご提出ください。